

27 多系統萎縮症 臨床調査個人票

(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症、シャイ・ドレーガー症候群) (1. 新規)

ふりがな				性別	1. 男 2. 女	生 年 月 日	1. 明治 2. 大正 3. 昭和 4. 平成	年 月 日 生	(満 歳)
氏 名									
住 所	郵便番号			電話 ()		出 生 都 道 府 県	発病時在住 都 道 府 県		
発 病 年 月	1. 昭和 年 月 (満 歳) 2. 平成		初 診 年 月 日	1. 昭和 年 月 日 2. 平成		保 険 種 別	1. 政 2. 組 3. 船 4. 共 5. 国 6. 老		
身 体 障 害 者 帳	1. あり (等級 ____ 級) 2. なし		介 護 認 定	1. 要介護 (要介護度 ____) 2. 要支援 3. なし					
生 活 状 況	社会活動 (1. 就労 2. 就学 3. 家事労働 4. 在宅療養 5. 入院 6. 入所 7. その他 (____)) 日常生活 (1. 正常 2. やや不自由であるが独力で可能 3. 制限があり部分介助 4. 全面介助)								
受 診 状 況 (最近6か月)	1. 主に入院 2. 入院と通院半々 3. 主に通院 (____/月) 4. 往診あり 5. 入通院なし 6. その他 ()								
発症と経過 (具体的に記述)									
【WISH入力不要】									
診 断	多系統萎縮症 (MSA) (1. 線条体黒質変性症 2. シャイ・ドレーガー症候群 3. オリブ橋小脳萎縮症)								
家 族 歴	1. あり		血族結婚 (1. あり 2. なし)		同胞者世代 (いとこ等) の発症者 (1. あり 2. なし)		2. なし		
			両親の世代に発症者 (1. あり 2. なし)		祖父母の世代に発症者 (1. あり 2. なし)				
			子の世代に発症者 (1. あり 2. なし)		その他 ()				
初 発 症 状	1. 失調症状 2. パーキンソニズム 3. 自律神経障害 4. その他 ()								
発 病 様 式	1. 緩徐 2. 亜急性 3. 急性 4. その他 ()								
経 過	1. 進行性 2. 進行後停止 3. 軽快 4. その他 ()								
神経症状									
歩行と姿勢について (各項目のうち該当番号に○をつける)					四肢の運動機能 (左右上下肢のうち最も重症なものを記載すること)				
<p>A. 歩行能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 正常 つぎ足歩行のみ不可 異常であるが支持なしで自立歩行可 支持なしで自立歩行可であるが、方向転換困難 つたい歩きで10m歩行可 一本杖で歩行可 二本杖か歩行器で歩行可 介助のみで歩行可 歩行不能 <p>B. パーキンソニズムの要素による歩行異常</p> <ol style="list-style-type: none"> パーキンソニズムの要素はなし 歩行は緩慢。小刻みでひきずることもあり、しかし加速歩行や前方突進現象は認めない。 困難を伴うが、一人で歩ける。加速歩行、小刻み歩行、前方突進現象がみられることもある。 介助歩行 歩行不可 <p>C. 開眼時立位能力</p> <p>支持なしで立位可能な場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 両足で片足立ちが10秒以上可能 足をそろえて立位可能 マンテスタの肢位で立位保持不能 開脚すれば立位可能 (動揺なし) 開脚すれば立位可能 (動揺あり頭部10cm未満の動揺) 開脚すれば立位可能 (動揺あり頭部10cm以上の動揺) <p>自力立位不可能な場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 一上肢を支えれば支え立ち可能 支え立ち不可 <p>D. 前屈姿勢の有無</p> <ol style="list-style-type: none"> なし 軽度の前屈姿勢 (高齢者では正常としてもおかしくない程度の前屈) 中等度の前屈姿勢。一側にやや傾くこともある。 高度の前屈姿勢、脊椎後彎を伴う。一側へ中等度に傾くこともある。 高度の前屈、究極の異常前屈姿勢 <p>E. 姿勢の安定性 (立ち直り反射障害と後方突進現象)</p> <ol style="list-style-type: none"> なし 後方突進現象があるが、自分で立ち直れる 後方突進現象があり、支えないと倒れる きわめて不安定で、何もしなくても倒れそうになる 介助なしには起立が困難 					<p>小脳症状</p> <p>F. 指-鼻試験</p> <ol style="list-style-type: none"> 正常 軽い動揺を認める 2相性の運動もしくは中等度の測定障害 3相性以上の運動もしくは著明な測定障害 鼻に到達しない、又は不能 <p>G. 踵-膝試験</p> <ol style="list-style-type: none"> 正常 運動分解を認める 軸方向にジャーク様運動を認める 側方にジャーク様運動を認める 強い側方へのジャーク様運動を伴う又は不能 <p>パーキンソニズム</p> <p>H. 安静時振戦</p> <ol style="list-style-type: none"> なし ごくわずかでたまに出現 軽度の振幅の振戦で持続的に出現しているか 中等度の振幅で間歇的に出現する 中等度の振幅で大部分の時間出現している 大きな振幅の振戦が、大部分の時間出現している <p>I. 固縮</p> <ol style="list-style-type: none"> なし 軽微な固縮、または他の部位の随意運動で誘発される固縮 軽度～中等度の固縮 高度の固縮。しかし関節可動域は正常 著明な固縮。正常可動域を動かすには、困難を伴う <p>J. 指タッピング (母指と示指をできるだけ大きな振幅でタッピング)</p> <ol style="list-style-type: none"> 正常 やや遅いか、振幅がやや小さい 中等度の障害。明らかにまた早期に疲労を示す。 動きが止まってしまうこともある。 高度の障害。運動開始時、hesitationをしばしば起こすが、 動きが止まることもある。 ほとんどタッピングの動作にならない。 <p>K. 椅子からの立ち上がり</p> <ol style="list-style-type: none"> 正常 可能だがおそい。一度でうまくいかないこともある。 肘掛けに腕をつけて立ち上がる必要がある。 立ち上がろうとしても椅子に倒れ込むことがある。 しかし最後には一人で立ち上がれる。 立ち上がるには、介助が必要。 				

自律神経症状			
1. Shellong 試験 (3分以内の最大低下値をそれぞれ記入) 前(臥位) (/) 後(立位) (/)	1. 施行 2. 未施行	3. 排尿困難	1. あり (1. 平成 年から 2. 不明) 2. なし
2. 失神・眼前暗黒感 ありの場合 (1. 平成 年から 2. 不明)	1. あり 2. なし	4. 尿失禁	1. あり (1. 平成 年から 2. 不明) 2. なし
		5. 陰萎(男性のみ)	1. あり (1. 平成 年から 2. 不明) 2. なし
		6. 頑固な便秘	1. あり (1. 平成 年から 2. 不明) 2. なし
その他の神経所見・症状			
認知症症状	1. あり 2. なし	核上性垂直眼球運動麻痺	1. あり 2. なし
幻覚(非薬剤性)	1. あり 2. なし	持続性注視方向性眼振	1. あり 2. なし
失語	1. あり 2. なし	嚙下障害	1. あり (1. 平成 年から 2. 不明) 2. なし
失行	1. あり 2. なし	構音障害	1. あり (1. 平成 年から 2. 不明) 2. なし
失認	1. あり 2. なし	呼吸障害	1. あり (1. 平成 年から 2. 不明) 2. なし
他人の手徴候	1. あり 2. なし	(睡眠時無呼吸、夜間のいびき)	
		四肢の腱反射	1. 亢進 2. 低下 3. 正常
		バビンスキー徴候	1. あり 2. なし
		その他神経所見	1. あり () 2. なし
画像所見 1. MRI (平成 年 月 日施行) 2. CT (平成 年 月 日施行) 3. 未施行			
異常	1. あり (1. 小脳萎縮 2. 脳幹萎縮 3. 橋の異常信号(十字サイン) 4. 線条体萎縮又は異常信号 5. 第3脳室拡大 6. 大脳萎縮 7. 大脳白質病変 8. その他 ())		
	2. なし		
生活状況			
食事	1. 自立 2. 部分介助 3. 不能	排泄	1. 自立 2. 部分介助 3. 不能
入浴	1. 自立 2. 部分介助 3. 不能	移動(50m以上)	1. 自立 2. 部分介助 3. 車椅子使用 4. 不能
整容	1. 自立 2. 部分介助 3. 不能	階段昇降	1. 自立 2. 部分介助 3. 不能
更衣	1. 自立 2. 部分介助 3. 不能		
治療			
セレジスト	1. 未使用 2. 使用(1. 著効 2. 効果あり 3. 効果なし 4. 不明)		
ヒルトニン	1. 未使用 2. 使用(1. 著効 2. 効果あり 3. 効果なし 4. 不明)		
抗パーキンソン薬			
a. L-DOPA 製剤	1. 未使用 2. 使用(1. 著効 2. 効果あり 3. 効果なし 4. 不明)		
b. ドーパミン受容体刺激剤	1. 未使用 2. 使用(1. 著効 2. 効果あり 3. 効果なし 4. 不明)		
c. 塩酸アマダジン	1. 未使用 2. 使用(1. 著効 2. 効果あり 3. 効果なし 4. 不明)		
d. 抗コリン剤	1. 未使用 2. 使用(1. 著効 2. 効果あり 3. 効果なし 4. 不明)		
e. MAO-B 阻害剤	1. 未使用 2. 使用(1. 著効 2. 効果あり 3. 効果なし 4. 不明)		
d. ドロキシドーパ	1. 未使用 2. 使用(1. 著効 2. 効果あり 3. 効果なし 4. 不明)		
e. その他 ()	1. 未使用 2. 使用(1. 著効 2. 効果あり 3. 効果なし 4. 不明)		
(1) 鼻腔栄養	1. あり (昭和・平成 年 月から) 2. なし	(3) 気管切開	1. あり (昭和・平成 年 月から) 2. なし
(2) 胃瘻	1. あり (昭和・平成 年 月から) 2. なし	(4) 人工呼吸器	1. あり (昭和・平成 年 月から) 2. なし
医療上の問題点			
【WISH入力不要】			
医療機関名			
医療機関所在地			
電話番号 ()			
医師の氏名			
印 記載年月日：平成 年 月 日			

27 多系統萎縮症 臨床調査個人票

(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症、シャイ・ドレーガー症候群) (2. 更新)

ふりがな			性別	1. 男 2. 女	生 年 月 日	1. 明治 2. 大正 3. 昭和 4. 平成	年 月 日 生	(満 歳)	
氏 名									
住 所	郵便番号			出 生 都 道 府 県		発病時在住 都 道 府 県			
	電話 ()								
発 病 年 月	1. 昭和 年 月 (満 歳) 2. 平成		初診年月日	1. 昭和 年 月 日 2. 平成		保 険 種 別	1. 政 2. 組 3. 船 4. 共 5. 国 6. 老		
身 体 障 害 者 帳	1. あり (等級 ____ 級) 2. なし		介 護 認 定	1. 要介護 (要介護度 ____)			2. 要支援 3. なし		
生 活 状 況	社会活動 (1. 就労 2. 就学 3. 家事労働 4. 在宅療養 5. 入院 6. 入所 7. その他 (____))						初回認定年月		
	日常生活 (1. 正常 2. やや不自由であるが独力で可能 3. 制限があり部分介助 4. 全面介助)						1. 昭和 年 月 2. 平成		
受 診 状 況 (最近 1 年)	1. 主に入院 2. 入院と通院半々 3. 主に通院 (____/月) 4. 往診あり 5. 入通院なし 6. その他 ()								
治療と経過 (前回申請からの変化を中心に具体的に記述)									
【WISH入力不要】									
診 断	多系統萎縮症 (MSA) (1. 線条体黒質変性症 2. シャイ・ドレーガー症候群 3. オリブ橋小脳萎縮症)								
初 発 症 状	1. 失調症状 2. パーキンソニズム 3. 自律神経障害 4. その他 ()								
発 病 様 式	1. 緩徐 2. 亜急性 3. 急性 4. その他 ()								
経 過	1. 進行性 2. 進行後停止 3. 軽快 4. その他 ()								
神経症状									
歩行と姿勢について (各項目のうち該当番号に○をつける)					四肢の運動機能 (左右上下肢のうち最も重症なものを記載すること)				
<p>A. 歩行能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常 2. つぎ足歩行のみ不可 3. 異常であるが支持なしで自立歩行可 4. 支持なしで自立歩行可であるが、方向転換困難 5. つたい歩きで10m歩行可 6. 一本杖で歩行可 7. 二本杖か歩行器で歩行可 8. 介助のみで歩行可 9. 歩行不能 <p>B. パーキンソニズムの要素による歩行異常</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パーキンソニズムの要素はなし 2. 歩行は緩慢。小刻みでひきずることもあり、しかし加速歩行や前方突進現象は認めない。 3. 困難を伴うが、一人で歩ける。加速歩行、小刻み歩行、前方突進現象がみられることもある。 4. 介助歩行 5. 歩行不可 <p>C. 開眼時立位能力</p> <p>支持なしで立位可能な場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 両足で片足立ちが10秒以上可能 2. 足をそろえて立位可能 3. マンテスタの肢位で立位保持不能 4. 開脚すれば立位可能 (動揺なし) 5. 開脚すれば立位可能 (動揺あり頭部10cm未満の動揺) 6. 開脚すれば立位可能 (動揺あり頭部10cm以上の動揺) <p>自力立位不可能な場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 一上肢を支えれば支え立ち可能 8. 支え立ち不可 <p>D. 前屈姿勢の有無</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なし 2. 軽度の前屈姿勢 (高齢者では正常としてもおかしくない程度の前屈) 3. 中等度の前屈姿勢。一側にやや傾くこともある。 4. 高度の前屈姿勢、脊椎後彎を伴う。一側へ中等度に傾くこともある。 5. 高度の前屈、究極の異常前屈姿勢 <p>E. 姿勢の安定性 (立ち直り反射障害と後方突進現象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なし 2. 後方突進現象があるが、自分で立ち直れる 3. 後方突進現象があり、支えないと倒れる 4. きわめて不安定で、何もしなくても倒れそうになる 5. 介助なしには起立が困難 					<p>小脳症状</p> <p>F. 指-鼻試験</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常 2. 軽い動揺を認める 3. 2相性の運動もしくは中等度の測定障害 4. 3相性以上の運動もしくは著明な測定障害 5. 鼻に到達しない、又は不能 <p>G. 踵-膝試験</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常 2. 運動分解を認める 3. 軸方向にジャーク様運動を認める 4. 側方にジャーク様運動を認める 5. 強い側方へのジャーク様運動を伴う又は不能 <p>パーキンソニズム</p> <p>H. 安静時振戦</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なし 2. ごくわずかでたまに出現 3. 軽度の振幅の振戦で持続的に出現しているか 中等度の振幅で間歇的に出現する 4. 中等度の振幅で大部分の時間出現している 5. 大きな振幅の振戦が、大部分の時間出現している <p>I. 固縮</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なし 2. 軽微な固縮、または他の部位の随意運動で誘発される固縮 3. 軽度～中等度の固縮 4. 高度の固縮。しかし関節可動域は正常 5. 著明な固縮。正常可動域を動かすには、困難を伴う <p>J. 指タツプ (母指と示指をできるだけ大きな振幅でタツピング)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常 2. やや遅いか、振幅がやや小さい 3. 中等度の障害。明らかにまた早期に疲労を示す。動きが止まってしまうこともある。 4. 高度の障害。運動開始時、hesitationをしばしば起こすが、動きが止まることもある。 5. ほとんどタツピングの動作にならない。 <p>K. 椅子からの立ち上がり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常 2. 可能だがおそい。一度でうまくいかないこともある。 3. 肘掛けに腕をつけて立ち上がる必要がある。 4. 立ち上がろうとしても椅子に倒れ込むことがある。しかし最後には一人で立ち上れる。 5. 立ち上がるには、介助が必要。 				

